

もの言う牧師のエッセー… 第9話 「ネクスト・ソサエティ」

ユダヤ系米国人経済学者 P.F. ドラッカーの本は私の愛読書だ。2012年が始まったが、ここに彼が今から 10 年前の 2002 年に書いた一冊の本がある。「ネクスト・ソサエティ」がそれだ。巻頭部分に日本人読者向けの "前書き" があるが、その一部をそのまま以下に抜粋する。

『日本では誰もが経済の話をする。だが、日本にとって最大の問題は社会の方である。この 40 年あるいは 50 年におよぶ経済の成功をもたらしたものは、社会的な制度、政策、慣行だった。その典型が系列であり、終身雇用、輸出政策、官民協調だった。多くの人たち、特に海外では、それらの制度、政策、慣行を日本の古い伝統だとする。しかし、私が初めて日本を訪れた 1950 年代には、まだそれらのものは生まれていなかった。いずれも思い切ったイノベーションだった。その全てが、その種のもの平均耐用年数をはるかに越えて有効に機能した。同じ頃、フランスでも日本に似た社会的イノベーションが行われた。それはドゴール政権の柱となった。有効に機能したが 10 年しかもたなかった。早くも 1965 年には時代に合わなくなり、捨てなければならなくなった。これに対し日本の社会的な制度、政策、慣行は、1990 年頃まで有効に機能した。だが、もはや満足に機能しているものは一つもない。今まさに、再び新たな制度、政策、慣行が求められている。』

正に至言である。この 10 年一体何をして来たのかとぼやきたくなるが、実は聖書は "次の社会" へのイノベーションを明確に指し示す。

「誰でもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。」

古いものは過ぎ去って、見よ、全てが新しくなりました。」

Ⅱコリント人への手紙 5 章 17 節

とある。つまり "キリスト=神" の存在しない社会は古いままの社会で限界点へと向かうだけだ。そろそろ神を信じ "次の社会" を実現してもいい頃だ。

PETER F. DRUCKER

**MANAGING IN
THE NEXT
SOCIETY**

